

科目名	病理検査学特論			分野・必選別・ 単位数	専門科目	選択	2単位
担当教員	◎教授(兼) 榎村浩一 教授 川杉和夫 教授 望月 眞						
課程	博士後期	配当年次	1～2年	配当学期	通年	授業方法	演習
授業の概要	自らの専門とする分野の知識について、教員に対して主導的にプレゼンテーションを行なう。						
授業の到達目標	①さまざまな症例や文献について各種検査と関連づけて病態生理学的に検討できる。 ②病理検査が重要となる症例において医師に適切な助言を行なうことができる。 ③病理検査法の可能性と限界に精通し、方法の開発・改良に関して適切な議論ができる。 ④博士の名にふさわしく、他人に自分の専門知識を教授できる。						
授業計画	回数	担当者			行動目標		
	1	望月 眞	教授		疾患の診断が準拠する解剖学、病理形態学の講義を主導できる。(循環器)		
	2	望月 眞	教授		疾患の診断が準拠する解剖学、病理形態学の講義を主導できる。(呼吸器)		
	3	望月 眞	教授		疾患の診断が準拠する解剖学、病理形態学の講義を主導できる。(消化器)		
	4	望月 眞	教授		疾患の診断が準拠する解剖学、病理形態学の講義を主導できる。(泌尿器)		
	5	望月 眞	教授		疾患の診断が準拠する解剖学、病理形態学の講義を主導できる。(神経・内分泌)		
	6	川杉 和夫	教授		さまざまな疾患に対する各検査法の所見を予測して解説できる。(循環器)		
	7	川杉 和夫	教授		さまざまな疾患に対する各検査法の所見を予測して解説できる。(呼吸器)		
	8	川杉 和夫	教授		さまざまな疾患に対する各検査法の所見を予測して解説できる。(消化器)		
	9	川杉 和夫	教授		さまざまな疾患に対する各検査法の所見を予測して解説できる。(泌尿器)		
	10	川杉 和夫	教授		さまざまな疾患に対する各検査法の所見を予測して解説できる。(神経・内分泌)		
	11	榎村 浩一	教授(兼)		指定された実際の症例と検査法の関連を総合的に検討できる。(循環器)		
	12	榎村 浩一	教授(兼)		指定された実際の症例と検査法の関連を総合的に検討できる。(呼吸器)		
	13	榎村 浩一	教授(兼)		指定された実際の症例と検査法の関連を総合的に検討できる。(消化器)		
	14	榎村 浩一	教授(兼)		指定された実際の症例と検査法の関連を総合的に検討できる。(泌尿器)		
15	榎村 浩一	教授(兼)		指定された実際の症例と検査法の関連を総合的に検討できる。(神経・内分泌)			
事前事後学修の内容およびそれに必要な時間	【事前学修】	病理学関連の医学雑誌に掲載されている症例報告を選んで読破しておく。また専門とする検査法と病理形態学の関連について、最新の論文を検索して要点をまとめておく。					
	【事後学修】	授業中の疑問点をまとめ、関連する文献等を利用し、次回授業までに解決しておくこと。					
	【必要時間】	当該期間に30時間以上の予復習が必要。					
教科書	必要があれば随時指示する。						
参考書	必要があれば随時指示する。						
成績評価の方法および基準	症例検討の口頭でのプレゼンテーション50%、レポート50%						
その他履修上の注意事項	試験やレポート等に対し、講義の中での解説等のフィードバックを行う。 カリキュラムマップのDP2が、この科目と本専攻の学位授与方針との関連を示している。						